

科目「中学音楽」シラバス

1. 中学3年間での教科到達目標

多様な音楽文化の理解を深め、生涯にわたって美に対する憧れの心情を養う。	音楽の幅広い活動を通して、感性を高め、自己表現できる積極的な能力を養う。	基本的な音楽理論を通じ、音楽の仕組みを学ぶとともに、音楽を楽しみ、親しめる心の目を開かせ、仲間と協力して音楽を創り上げる能力を養う。
-------------------------------------	--------------------------------------	--

S：想定以上に該当能力の醸成が達成されたと判断されるもの

A：期待通りに該当能力の醸成が達成されたと判断されるもの

B：部分的に該当能力の醸成が達成されたと判断されるもの

C：該当の能力の醸成が不十分と判断されるもの

2. 科目の到達目標と評価の観点

	単位数	学科・学年・学級	使用教科書と補助教材
(教科名) 音楽 (科目) 音楽	2 単位	第 1 学年	教科書：中学生の音楽 1 教育芸術社 大妻指定の音楽ノート ソプラノリコーダー
学習の到達目標	歌唱、器楽、鑑賞などの音楽活動を通して、音楽の仕組みや基本的な音楽理論を学び、音楽への興味や感心を養う。		
評価の観点	＜知識・技能＞ 楽曲の内容や曲想に関心を持ち、音楽表現を工夫して主体的に取り組もうとしている。		
	＜思考力・判断力・表現力＞ 曲想を感じ取って音楽表現を工夫し、どのように演奏するかについて、思いや、意図を持っている。		
	＜主体性・多様性・協働性＞ 楽曲の内容や曲想を生かした音楽表現をするために、必要な技術や技能を、身に付けている。		

【点数化が難しい課題については、観点別評価とする。】

A：「十分満足できる」状況と判断されるもの・・・100%

B：「おおむね満足できる」状況と判断されるもの・・・80%

C：「努力を要する」状況と判断されるもの・・・60%

D：未提出、未実施・・・0%

2. 学習計画及び評価方法等

月	単 元	学習のねらい	学習のポイント、使用教材等
1 学 期	【歌唱】 「校歌」	- 校歌の作曲者/作詞者や曲の背景などについて知り、暗譜で歌えるようにする。 - 基本的な発声法や呼吸法を身につける。 - 曲の分析から、曲の特徴を生かしながら、歌唱表現を工夫して歌えるようにする。 - 指揮者と伴奏者の役割および関わりについて理解し、後の合唱活動へ礎とする。 - それぞれの適正に応じて歌唱におけるパートおよび指揮者・伴奏者を決める。	- 指定の音楽ノートを使用する。 - まずは積極的に歌う姿勢を大切にし、その上で基本的な技能を身につける。 - 楽譜内にほとんど強弱記号が付けられていないことから、作詞者と作曲者の思いを感じ取らせる。 - 合唱活動へ向け、単純拍子の指揮の振り方を全員で確認する。 - 校歌の曲中においては、途中で拍子が変わる箇所注意を促す。 - パート決めについては、全ての声部にそれぞれの役割があり、パートによって優劣がないことを理解させる。
	「校歌」の実技テスト	グループ（またはペア）を組み、クラス内で発表会形式でのテストを行う。	今後の音楽活動に向け、発表時の心構えや鑑賞時の態度にも注意を促す。
	【器楽】 ソプラノリコーダー 「虹の彼方に」ほか (H. アーレン作曲)	- リコーダーの歴史的背景や種類など、基本的な知識を身に付ける。 - ソプラノリコーダーの基礎的な奏法（構え方・姿勢・運指など）を覚える。 - 四種のアーティキュレーションの奏法を身につけて、豊かな演奏表現を目指す。	アーティキュレーションについては、『ノンレガート奏法』『スラー奏法』『スタッカート奏法』『ポルタート奏法』の4種を扱う。
	リコーダーの実技テスト	個人発表形式での実技テストを行う。	今後の音楽活動に向け、発表時の心構えや鑑賞時の態度にも注意を促す。

夏休み課題	【合唱】 クラス合唱曲の選曲	・合唱祭候補曲を配信聴き、感想用紙の記入をし、クラス合唱曲の選曲を行う。 ・女声合唱の響きに関心を持たせ、主体的にクラス合唱に取り組ませる導入とする。	・斉唱と合唱との違いについて理解を促す。 ・夏休みに学習を行うことができるよう、事前に Google クラクルームにて配信しておく。 ・合唱の和声的なハーモニーへの理解を促す。 ・同じ曲でも編曲者によって曲の内容や雰囲気が変わること等を説明し、女声合唱への理解を促す。
2 学期	【合唱】 曲目の決定 合唱の役割選出 合唱曲の音取り・練習 曲のイメージ作り 指揮法の基礎 伴奏の注意点	・クラス合唱として取り組む曲目を決定する。 ・指揮者、伴奏者、パートリーダーを選出する。 ・パートリーダーを中心に自主的に音取りを行い、ただし音程感やリズム感を身に付ける。 ・曲に対するイメージをイラストにして描き、曲想をとらえる。 ・歌詞の意味や歌詞に込められた心情を考え、演奏表現を工夫して歌う。 ・パートやグループ内で話し合いを行い、どのように歌うかについての考えや意図を持つ。 ・拍子の基本的な図形を覚えて、基礎的な指揮の技能を身に付ける。 ・曲に合わせた表現を考え、工夫して指揮を振る技能を身に付ける。 ・歌との関連性を考えて、バランスを考えて演奏できる技能を身に付ける。	・立候補者が出やすい雰囲気や、全体の前で自己表現ができる雰囲気を作らせる。 ・パートリーダーが指示を出しやすい様に、皆で協力して参加できるよう声がけを行う。 ・歌詞の内容や曲想に興味を持ち、主体的に取り組ませる。 ・曲の基本的なテンポのみならず、リタルダンドやフェルマータ、強弱の取り扱いについても触れる。 ・楽譜に書かれている強弱だけでなく、自ら工夫して強弱や音色をつくる必要性を伝える。 ・指揮者と伴奏者と合唱の 3 者の一体が大切であることを理解させる。

2 学 期	各パートの合わせ	・パートごとのイメージを基に、全体としてのまとまりや音楽表現を工夫して歌えるようにする。	・楽譜に書かれている様々な記号に着眼して表現方法を考えさせる。 ・多声的なパートの役割等の工夫について考えさせる。
	合唱曲の実技テスト	・自分のパートを1人ずつで歌い、積極的に歌唱に取り組む態度を養う。	・他のパートにつられず、自分のパートがしっかり歌えることの大切さを認識させる。 ・他の仲間の演奏を聴き、自分の歌い方の参考にできるようにする。
	指揮者・伴奏者のテスト	・指揮者や伴奏者は、グループの演奏を聴いて、各声部の役割や状況を把握し、これからの合唱作りの参考とする。 ・指揮、伴奏の技術的内容の他に全体を指導する試験も行う事によって、リーダーとしての自覚を育成する。	・指揮者は「基本的な技能の習得」や「曲を通して問題なく指揮を触れたか」等を評価の観点とする。 ・伴奏者は「曲種に応じた演奏表現」や「曲を通して問題なく弾けたか」等を評価の観点とする。
	クラス合唱の録画	・演奏を録画して、意見の交流を行い、曲のイメージを具体化し、演奏表現に更なる工夫を加える。 ・姿勢や表情、強弱、各声部のバランス等について客観的に聴き、演奏表現に繋げる。	・前回の歌のテストから、指揮者や伴奏者は「全員に適切な指示が出せたか」を確認する。 ・効果的な響きになるために合唱隊形を工夫させる。
	振り返り	・「全体を通しての感想」「個人としての感想」を記入し、良い点や反省点を考える。	・積極的な意見交流ができるような主体性を持たせる。 ・次に向けてどのような練習が必要かの積極性を持たせる。
	【鑑賞】 「四季」より「春」 (ヴィヴァルディ作曲)	・バロック時代の協奏曲の特徴を実際の楽譜を見ながら確認する。 ・「四季」より「春」の鑑賞を通して、標題音楽的な要素やヴィヴァルディの表現方法を感じ取る。 ・楽譜を見ながらソネットの箇所とソネットが表現している音楽の特徴を感じ取る。	・西洋音楽史の時代区分について説明し、バロック時代の位置づけを確認する。 ・バロック時代に用いられた形式の1つである「リトルネッロ形式」について説明する。 ・「ソネット」について説明する。

2 学 期	【楽典】 音楽のいろいろな記号・ 楽語	・ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバスの弦楽器の音色や特徴を知り、通奏低音との響きを感じ取る。 ・音楽の特徴を、その背景となる文化や歴史と関連付けて解釈をし、価値を考えるなどして、音楽の良さや美しさ味わって聴く。 ・音楽における様々な楽語や記号に関して、読みと意味とスペルを身に付ける。 ・1学期および2学期までに学んだ音楽理論を復習する。	・合奏、重奏、独奏など様々な表現形態について説明する。 ・ピアノの前身であるチェンバロの特徴や、その響きについても触れる。 ・単調になりがちな暗記もゲーム的な要素を入れ、楽しく主体的に取り組ませる。 ・ドリルノート、音名冊子、プリント、教科書を用いて学習を行う。 ・音楽の仕組みや理論を学ぶことは、演奏を行う上でより豊かな音楽表現に繋げる事ができるという認識を持たせて主体的に取り組ませる。
冬 休 み 課 題	「夢をあきらめないで」の音取りおよび暗譜	・各自で「夢をあきらめないで」の音取りと暗譜を行い、3学期の実技テストおよび卒業式での演奏に備える。	・楽譜は事前に配布し、音源はGoogle クラスルームで配信する。
3 学 期	【合唱】 合唱曲の実技テスト 仕上げ まとめ	・自分のパートを1人ずつで歌い、積極的に歌唱に取り組む態度を養う。 ・これまでの学習を振り返りながら、より充実した響きを目指す。 ・パートリーダーをはじめとして、生徒個人が的確な指示を出せる能力を養う。 ・仲間と協力して音楽を創り上げる能力を養う。 ・合唱祭を振り返り、感想文を提出する。	・他のパートにつられず、自分のパートがしっかり歌えることの大切さを認識させる。 ・発声や言葉の発音、呼吸法などを評価の観点とする。 ・「本番まで」「本番当日」「他クラスの演奏」「今後の活動」の4観点で作文を行う。

【合唱】 卒業式の全体合唱 「夢をあきらめないで」 (岡村孝子作詞・作曲)	音取りや全体練習を主体的に取り組み、短時間で成果を上げるための集中力を養う。	- 声部の役割や全体の響きを工夫しながら、どのように合わせて歌うかについて、考えや、意図を持たせる。 - 合唱祭での経験を基に、音取りやリズム習得において、短時間で仕上げる為の合理的な練習方法を工夫させる。
【歌唱】 卒業式の歌	「君が代」を斉唱で学習し、伝統的な楽曲の歌唱能力を養うとともに、一年間で養った歌唱技能を定着させる。	知識および技能の習得のみならず、式典の心構えについても触れる。
【楽典】 「一年間のまとめ」	中学1年生で習った内容を復習して次年度へつなげる。	

3. 学習計画及び評価方法等

評価の観点及び内容	評価方法（具体例）
<知識・技能> 授業で扱った音楽理論や用語・記号を理解し、読譜力が高まった。	定期考査 や提出物
<思考力・判断力・表現力> 表現豊かな演奏に向けて、発声や強弱やリズムなどの工夫ができた。	授業の様子や実技テスト
<主体性・多様性・協働性> 宿題を欠かさずこなす。不明点を解決するための努力をしている。	課題提出状況や、授業内・休み時間の様子で判断。

【提出物状況の評価基準】

- A：期限を守り、答えの丸写しではなく自分の考えで8割以上解答している。
- B：解答はしっかりとできているが期限を守れなかった。
もしくは期限を守れたが空欄が2割以上ある。
- C：「努力を要する」状況と判断される
- D：未提出、未実施